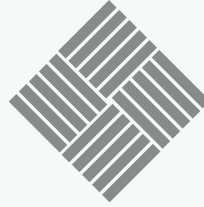


組紐・組物学会 ニュースレター

The Kumihimo Society Newsletter



Volume

7

Number

13

2017年3月31日

組紐・組物学会行事（終了分）

2016年 4月22日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「丸台リバーシブル」	小嶋博子
2016年 5月14日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「組紐ディスクとプレート」	多田牧子
2016年 6月17日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「ワイヤー組紐」	青木芙紗江
2016年 7月9日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「ビーズ組紐」	佐久間なほみ
2016年 8月26日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「楽しい組紐」	丸山文乃
2016年 9月10日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「アンデスの平組」	青柳淑枝
2016年 10月21日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「ジグザグ組紐」	西幾代
2016年 11月12日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「丸台組紐の無限の可能性」	吉田夕子
2016年 12月9日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「プレートでネックレス」	今井雅子
2016年 12月10日（土）	9:00～17:00	検定試験（実技）	京都工芸繊維大学ノートルダム館3階
2016年 12月11日（日）	9:30～12:00	検定直前レクチャー	多田牧子
2016年 12月11日（日）	13:00～15:00	検定試験（筆記）	京都工芸繊維大学ノートルダム館3階
2017年 1月14日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「面白い組紐」	古澤陽子
2017年 2月17日（金）	10:00～16:00	京都ワークショップ「ループ組紐の人差し指操作」	ループ組紐愛好者グループ
2017年 3月11日（土）	10:30～16:00	東京ワークショップ「クテ打」	亀井三枝子

目次 Contents

2 第3回組紐国際会議「Braids 2016」報告 多田牧子

8 丸台組紐の無限の可能性 吉田夕子

11 組紐・組物学会関連行事予定

In this issue

The 3rd International Conference on Braids 2016 M. Tada 2

Unlimited Possibility of Marudai Braids Y. Yoshida 8

Forthcoming Kumihimo events in and outside of The Kumihimo Society 11

組紐・組物学会ニュースレター

第7巻 通算13号 2017年3月31日発行

編集・発行 組紐・組物学会事務局 京都工芸繊維大学大学院

伝統みらい教育研究センター内 〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

TEL/FAX:(075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp

本印刷物と同じ内容は学会のWebでもご覧になれます。http://www.kumihimo-society.org

Braids 2016

第3回組紐国際会議報告

多田牧子



写真1 ピュージェットサウンド大学管理棟

1. はじめに

第3回目となる国際会議 International Conference on Braiding (略称 Braids 2016) は2016年の7月24日から30日朝まで、アメリカのシアトルの近く、タコマ市のピュージェットサウンド大学で開催されました。広々としたキャンパス、手入れの行き届いた芝生、素晴らしく大きな木々と林、そして爽やかな気候という恵まれた環境の中での国際会議でした。参加者は150名ほどで、内訳はアメリカ、イギリス、ベルギー、オランダ、イタリー、南アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド、スウェーデン、南米、日本と多彩で、組紐・組物学会からは26名が参加しました。以下にワークショップなど会議の内容をご報告致します。

2. ワークショップ

今回の会議のテーマは「Braids, Bands & Beyond」です。2日ワークショップは15講座、1日ワークショップは24講座、内容は、日本の組紐だけでなく、アンデスの組紐、ループ組紐、ビーズ組紐、プライスプリット、スブラング、幅の狭い織物(タブレット・ウイービングなど)、ポビンレース、結び、紐でできるアートなど、面白い科目が並びました。今回は日本人が講師として4名、講演者として1名参加しているのが特徴です。以下にワークショップの講

師、「題目」(本学会からの受講者:敬称略)の順に示します。

(1) 組紐関係

Makiko Tada 「唐組台の組紐」

Makiko Tada 「プレートで羅組・レノブレード」

Yuko Yoshida 「丸台組紐の無限の可能性」

Rosalie Neilson 「組糸を内側と外側に入れ替えるループ組紐」(小嶋・石井・清澤)

Lynn Caldwell 「色の塊・ビーズ組紐」(長井・桃井)

Adrienne Gaskell 「ビーズぎっしりのビーズ組紐」

Adrienne Gaskell 「ビーズ組紐: 装飾された老松組・朝露組」(小西・西・安田)

Karen DeSousa 「隠れた畝の組紐」(吉田)

Michael Hattori 「高台・復元模造の方法」(不破・吉田)

Michael Hattori 「ならび唐組・大丸台」(不破)

Leigh Morris 「ジュエリーのためのジグザグ組紐」

(猪田・小嶋・清澤・西・安田)

Rodrick Owen 「ペルーの頭帯」(青柳・鈴木・古澤)

Dominic Taylor 「筒状ブレード」(菊池・築地)

Inglid Crickmore 「ループ操作・柄だし」(青柳・古澤)

Anna Sparr 「髪の毛の組紐」

Robyn Spady 「オートクチュールのブレードと縁取り」

(菊池・木村・長井)



写真2 プレートで羅組・レノブレードのクラス(多田)



写真3 丸台組紐の無限の可能性のクラス(吉田)



写真4 真田紐のクラス (高木)



写真5 一筆書きのトーションレースのクラス (鮫島)

(2) プライスプリット

Julie Hedges「自然の形に触発された3D プライスプリット」
(猪田・鮫島)

Linda Hendrickson「ライスプリットで文字を」
(木村・西・安田)

Barbara J. Walker「ライスプリット・紐を足す方法」
(小西・鈴木・桃井)

Barbara J. Walker「筒状ライスプリットから組紐へ」
(小西・長井・不破・桃井)

(3) タブレット・ウイーピング

Linda Malan「昔のタブレット・ウイーピングの再発見」

John Mullarkey「エジプト・コプトの菱模様」

John Mullarkey「ダブルカード・ダブル返しの斜め模様」
(木村)

Kris Leet「過去からの教え」

Linda Hendrickson「Sazigyo 神聖・繊細なタブレット・ウイーピング」(鮫島)

(4) その他の織物

Susan Foulkes「ダブル綜紉で織る模様織」(高木)

Marilyn Romatka「弓状織機で織る」

Laverne Waddington「南米の縦横模様の織物・二重織ピックアップ技法」

Alison Irwin「二重織物・模様を作る」(高木)

Tamaki Takagi「真田紐」

(5) その他の技法

Kim Davis「ワイヤーでボビンレース」(伊藤・吉波)

Junko Samejima「一筆書きのトーションレース」(小西・鈴木・桃井)

Carol James「スプラングの探検」(伊藤)

Carol Wang「幸運花結び」(石井・築地)

Carol Wang「現代のマクラメ結び」

(石井・菊池・木村・築地・長井)

Jacqui Carey「始まりと終わり・ビーズで仕上げ」

Lyn Christiansen「あなたの組紐でアート」

3. ワークショップ講師による作品展

会期中、ワークショップの講師を務めたアーティストの作品展が行われました。会場があまり大きくなかったので、点数は多くありませんでしたが、それぞれ、自分の得意とするテクニックを駆使した大変レベルの高い作品が並びました。写真はその一部です。



写真6 講師による作品展の一部



写真7 講師による作品展の一部



写真8 講演会場のロトンダ・ホール

4. レクチャー

講演はツアーを除く毎日、朝食後、ワークショップ開始までの間と、時には夕食後にも行われました。会場は管理棟に隣接するロトンダ・ホールで、開放的な作りのため、遮光や外部の騒音対策に少し難がありました。

(1) キャロル・ジェームス

「ジョージ・ワシントンの帯 (サッシュ)」

Carol James: Replicating George Washington's sash

7月25日(月) 朝8:00~

スラングは昔から衣服のために使われるブレードイングの技法です。1700年代にその技法は軍隊の帯(サッシュ)に通常使われました。時の将軍E・ブラドックは、彼の軍事顧問のジョージ・ワシントンに、そのようなサッシュを与えたそうです。キャロル・ジェームスは2012年にこのサッシュの研究をし、その報告やスラングについて楽しく講演しました。

(2) 魚住忠司「組紐複合材料」

Tadashi Uozumi: Kumihimo Composite Materials

7月26日(火) 朝8:00~

魚住前会長は、組紐と組紐複合材料を研究・開発しています。組紐複合材料、炭素繊維、そして考案した組紐についてわかりやすく講演しました。

(3) アンナ・スパー

「スウェーデン伝統のヘアブレードイング」

Anna Sparr: Hair braiding in the Swedish Tradition

7月26日(火) 19:00~

アンナ・スパーはスウェーデンの伝統的工芸である髪の毛で作る組紐のアクセサリについての講演を行いました。日本では全く馴染みのない髪の毛の組紐ですが、西洋では金髪などで作り、アクセサリに用いられています。

(4) リン・クリスチャンセン

「Twisted Again: ボストン組紐展の報告」

Lyn Christiansen: Twisted Again

7月26日(火) 20:00~

リン・クリスチャンセンは飛び入りとも思える状況の中、自身が企画したボストン展について報告しました。ボストン展は2016年の2月に小嶋博子、Jennie Parry、Helen Vonow、Jacqui Carrey、多田牧子、Lyn Christiansenの作品を展示したもので、アメリカでは初めての本格的な組紐展でした。

(5) カティア・ヨハンセン

「デンマーク王室コレクションの組紐」

Katia Johansen: Braids in the Royal Danish collection

7月27日(水) 19:00~



写真9 魚住前会長の講演



写真10 小嶋博子会長の作品について熱く語るリン



写真11 カティア・ヨハンセンの講演



写真13 博物館ツアー

カティア・ヨハンセンはデンマーク王室コレクションの織物部門の管理を35年間行っています。コレクションに含まれる様々な組紐類を研究、そして復元しています。金糸銀糸絹で作られたそれらの組紐のスライドをたくさん見せてくれました。そして Joy Boutrup と共同研究を行い、1600年代頃のデンマークではループ操作法も行われていたことにも言及していました。

(6) ロドリック・オーエン

「ペルーの組紐の終わりのない旅」

Rodrick Owen: My never ending story with Peruvian braids

7月28日(木) 朝8:00～

ペルーの組紐研究の一人者であるロドリックが、これまで歩いてきた道を詳しく講演しました。どうやって解明したかとか、いろいろな博物館で見てサンプルを作ったこと、そして作品を作ったこと、また日本で組紐の勉強をしたことなどを話しました。現在80歳を超えたロドリックの講演は、最後はスタンディングオベーションで拍手喝采でした。

(7) キム・デイビス「初期のボビンレース」

Kim Davis: Early bobbin lace

7月29日(金) 朝8:00～

ボビンレース作家のキムは、昔のボビンレースとは何かについて講演しました。彼女は今回ワイヤーを使ったボビンレースの素晴らしい作品を発表しています。

5. コンファレンス・ツアー

ワークショップの中日(27日)にコンファレンス・ツアーが開催されました。博物館ツアー(バス2台)とファッションツアー(バス1台)は別行動でしたが、昼食時にはシアトルの湾を一望できる公民館に全てのバスが集まり、大学の学食謹製のランチボックスが配られました。

博物館ツアーは The Burke Museum と Seattle Asian Art Museum を訪問し、染織関係では、絞りやいろいろな国の藍染、織物の展示を見ることができました。

ファッションツアーは50人限定で行われ、Experience Music Project では、ニュージーランドの Wearable Art Exhibition がいろいろ展示され、興味深いものでした。Bellevue Arts Museum では奇抜な Ebony Fashion 50年の歩みの展示がありました。写真は Experience Music Project での子供たちへのファッションワークショップの様子です。



写真12 ロドリック・オーウエンの講演



写真14 ファッション ツアー



写真15 ロトンダ・ホールで開催されたバザール

6. プレイダーズ・バザール

組紐に関係するアイテムの販売を参加者が自ら行うプレイダーズ・バザールは、月曜と木曜の夜7時から9時、the Rasmussen Rotunda ホールで行なわれました。飾りつけや販売を自ら行うのは楽しいものです。参加者各自の作品や組紐の材料、器具、道具、書籍など、多種多様なアイテムが販売されました。

7. 晩餐会

会議の公式晩餐会は7月29日18:00からUpper Marshall Hall で催されました。きもの姿の日本人参加者は大変な人気で、他の参加者から写真撮影のリクエストが殺到していました。その一方、冷房のない宴会場は徐々に暑くなり、一部の席の間では熾烈な扇風機の取り合いも行われていました。

次回の会議の開催については、事前に日本での開催を打診されており、京都工芸繊維大学の濱田教授にご相談の上開催を受諾することが内定していました。しかしほとんどの参加者には伏せられており、晩餐会の最後に公式発表となりました。今回の会議の運営メンバーのRobyn Spadyの「次回は日本で！」との発表に、会場では大きな歓声が上がりました。多田が受諾のご挨拶をした際に、希望開催年を2年後か3年後かで挙手して頂いたところ、ほとんど同数でしたが、全員の準備が整う3年後、2019年に開催することにな

りました。会議の実施には、組紐・組物学会の皆様の主体的な参画を期待しております。

8. 宿舎 Trimble Hall

日本人参加者全員が一週間を過ごした宿舎は、ピュージェットサウンド大学の敷地内にある Trimble Hall という新しい近代的な寮です。4室または5～6室のシングルルームにつき1～2室のバスルームが付属していました。キッチンには、冷蔵庫、電子レンジがあり、スーパーで購入したもので食事することもできます。各階に無料のランドリー設備があったのは大変重宝で、有難いことに今回は洗濯物を一切持ち帰ることがありませんでした。またすべての部屋と大学構内はほとんどどこでもワイヤレスでインターネットが利用できました。

日本人は前回のマンチェスターと同様、全員が同じ階の一緒にグループで滞在し、いつでも情報交換が可能でした。また同じフロアに運営グループや主だった方々の部屋もあったので、一緒にワインパーティなどを楽しむことができました。その一方、宿題を抱えた人、予習・復習をする人たちも少なくなく、しっかりと勉強も行われていました。

毎日の食事は、晩餐会を除けば3食とも大学のカフェテリアで食べることになります。朝から晩まで同じ学食の食事となると、飽きがかかることが懸念されま



写真16 マーシャルホール2階の会議晩餐会



写真17 一日に3度も通った学食

したが、さすがに各国の留学生の嗜好に対応できていて、選択の幅は十分でした。どちらかといえばお酒が飲めないことの方に不満があったようです。

9. 会議の前後の見学会

会議前後に組紐・組物学会主催の見学会を行いました。一緒に行きたいという外国の方も一緒にの楽しいバスツアーでした。以下の見学会や空港への移動などのバスの手配はすべて、英語堪能でシアトル居住の経験も長い吉波京子さんのお手を煩わせました。吉波さんありがとうございました！

(1) ビーズショップ巡り

ほとんどの皆様に、時差ぼけを防止するために1日早めに来ていただきました。せっかくですからとワークショップが始まる前日に手芸品店巡りのバスツアーを企画しました。あらかじめアメリカ人にリサーチして選んだシップレック・ビーズは体育館のような巨大なお店で、全部を見て回るのはいへんでした。さすがはアメリカサイズのビーズ屋さんでした。

(2) マウントレーニア

最終日にマウントレーニア・ツアーとシアトル市街ツアーを実施しました。山に向けてバスが出発する頃は曇りで、中腹でも全く山が見えないことが危惧され



写真19 レーニア山(標高4400m)

ましたが、到着する頃には快晴となり、タコマ富士と呼ばれる美しいマウントレーニアの自然を楽しむことができました。

(3) シアトル市内観光

このグループも小型のバスでタコマからシアトル市街に移動しました。スターバックス1号店やパイク・プレイス・マーケットを巡り、最後に立ち寄ったスペース・ニードル周辺はたまたま大きなイベントの最中でした。その交通規制によって小型バスが帰りの集合場所に入れなくなるアクシデントがあり、吉波さんも急用でタコマに残っていたため、国際電話が飛び交った末になんとか宿舎に戻ることができました。

10. おわりに

はや3回目となった組紐国際会議ですが、開催国の事情などから徐々にその範囲を広げ、幅の狭いテキスタイル全般が含まれるようになってきました。またキャンパス内に寮がある欧米の大学での開催が続いたこともあり、職住接近の参加スタイルが定番になりつつあります。一巡して日本に戻ってきた次回の会議をどう運営するかは、第1回の京都會議の初心に戻る一方、これらの新しい流れにも可能な限り対応して行く必要があると思われます。会議運営に対する学会員各位の積極的なご意見、ご参加を期待しております。



写真18 宿舎内だけは飲酒が許可されている



詳細は P.13 を参照

写真20 ロビン・スパディ編集による会議の公式図録

丸台組紐の無限の可能性

Unlimited possibility of Maru-dai braids



吉田夕子
Yuko Yoshida

1. はじめに

組紐の歴史は長く、古くは縄文時代(紀元前 3000-4000 年)の土器にその痕跡が認められます。

簡単な構造から複雑な構造まで、古来よりいろんな紐が組まれており、たくさんある既存の技法を学ぶだけでもかなりの時間を要します。それでもまだ新たな発見ができる余地が残されているように思います。

配色だけでなく、素材を変えたり、糸のボリュームを変えたりと、日ごろからみなさんもいろいろな紐の表情の変化を楽しんでいることと思います。

今回はもう少し踏み込んで、紐の構造を変えたり、パターンを利用して自由に紐をデザインすることにフォーカスしたいと思います。

私がもし天才なら、湧き上がるイメージーションやアイデアを武器に、新しい紐をつぎつぎに考えつくことができるかもしれません。でも、残念ながら私はありふれた普通の人でした。そこで私がご紹介するのは、天才じゃなくても少しの工夫で、新たな発見やいつもと違うものが作れる、そんな誰もができるちょっとしたヒントです。

伝統的な組み方を少しアレンジすると、とても楽しい結果になることがあります。時には全然楽しくない結果に終わることもありますが、それはそれでまた新しい発見です。新しいことを発見する楽しさをぜひ共有したいと思います。

2. アプローチ1：伝統的な技法を少し変える

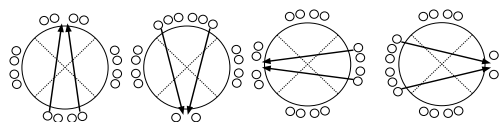
(1) 玉の配分を変える

・丸源氏組の例

以下は 16 玉の丸源氏組の画像と組み方です。丸源氏組は通常前後左右に同じ数の玉を配置します。



丸源氏組



しかし、この前後左右の玉の数を変えたらどうなるでしょうか？

以下に 4 例を示します。



例 1-1



例 1-2



例 1-3



例 1-4

(2) 手順を変える

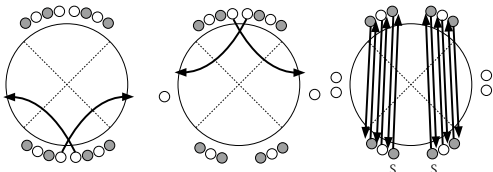
・ 笹波組の例

笹波組は通常、真ん中の糸を外に出し（あるいは外の糸を中に入れ）た後、前後の糸を入れ替え、その後糸を元の配置に戻します。

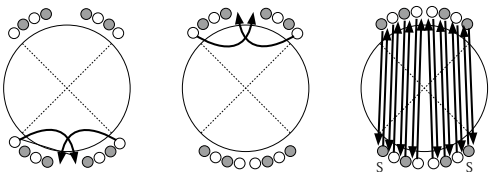
これを規則正しく繰り返して組んでいきます。



笹波組



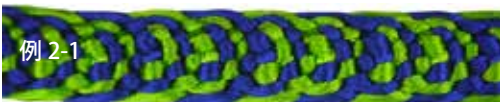
笹波組（外出し）



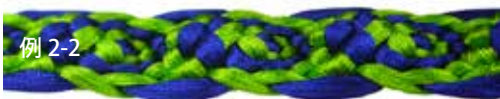
笹波組（中入れ）

もし内側の糸が外に行ったあと、元の位置に戻らずに、前後の玉が徐々に少なくなったらどうなるでしょう？

前後の糸の入れ替えを部分的に行ったら？
外だしと中入れの手順を組み合わせたら？
以下に4例を示します。



例 2-1



例 2-2



例 2-3



例 2-4

3. アプローチ2：2つの技法を組み合わせる

次にご紹介するのは、二つの伝統的な技法を組み合わせること。古来から2つの技法の組み合わせは存在し、とくに目新しい手法ではありません。

例えば、土筆組は江戸八つ組と丸源氏組を組み合わせたもの、老松組は江戸八つ組と江戸八つ組を組み合わせた構造です。



土筆組

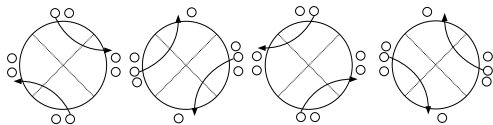


老松組

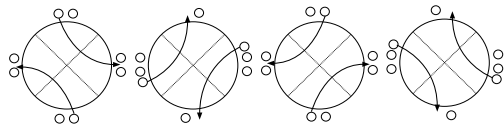
それならほかにも同じように相性のいい組み合わせがあるのではないのでしょうか？

今回は江戸八つ組と八つ瀬組を組み合わせせて遊んでみました。

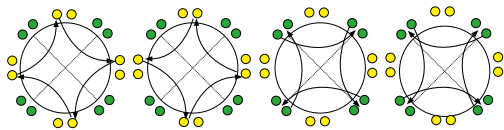
・ 江戸八つ組 x 八つ瀬組の例



江戸八つ組

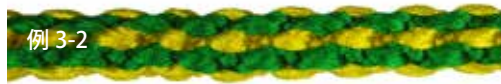
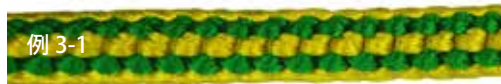


八つ瀬組



江戸八つ組（黄）と八つ瀬組（緑）の組み合わせ

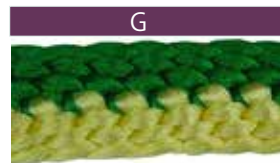
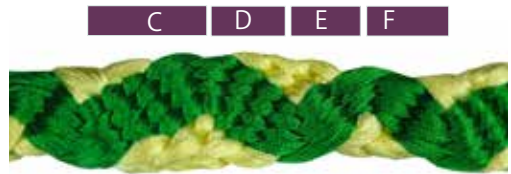
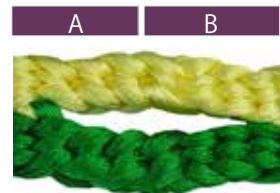
江戸八つと八つ瀬の回数を変えて楽しんでみる。
糸をもう一方の内側を通るようにしたり、外側を通るようにして変化をつけてみる。



4. アプローチ3：パターンを使って自在にデザインする

次はパターンで楽しんでみましょう。

A から G まで 7 つのパターンがあります。これを組み合わせ自由にデザインします。右に行ったり、左に行ったり、くっついたり、離れたり、中を通ったり、外を通ったり。組み合わせによって、紐の形もデザインもあなた次第です。



ここでご紹介したのはほんの一例ですちょっとした変化を加えて、ぜひ新たな可能性を自分自身で探ってみてください。そして、素敵な紐ができればぜひみんなに紹介してください。

参考文献

- [1] Yuko Yoshida (2016). "Infinite Possibility of Marudai Braid." In: Spady, R. ed. Proc. 3rd International Conference of Braids, The Braid Society, UK. 21-24.
- [2] 多田牧子 (2015). 「創作の組紐」組紐・組物学会ニュースレター 6(1), 6-9.



謝辞

Brads 2016 で教える機会を与えてくださった、また支援して下さった皆様の方々に感謝いたします。特に多田牧子先生、Adrienne Gaskell さんには多大なるご協力をいただきありがとうございました。

京都ワークショップ

京都工芸繊維大学



丸台の組紐・リバーシブル

2016年4月22日(金) 小嶋博子



2015年の学会賞に輝き、三人展でも人気だった小椋源氏と平源氏のリバーシブルの組紐のワークショップでした。表と裏の糸を揃えて動かす難易度の高い素晴らしい組紐です。初心者用にディスクやプレートの組紐の別メニューもありました。

身近な金属を使って作る組紐

2016年6月17日(金) 青木英紗江



銅と真鍮のワイヤーを使って組紐を作りました。組紐用糸とは違う素材を使う事で、同じ技法なのに違った雰囲気を楽しめます。そのままの状態で、ネックレスやイヤリングに使えるかわいらしい小物です。写真は笹波組で組んだものです

Twine(振り) 技法のマフラー

2016年8月26日(金) 丸山文乃



柔らかいツイード糸を用い、振り技法で組紐のマフラーを作りました。振り技法は、組目が固定されるので、羅のような透け感のあるものができます。いろいろな用途に利用していただきたい技法です。

ジグザグ組紐あそび

2016年10月21日(金) 西 幾代



プレートを使って組むジグザグ組紐でアクセサリを作りました。組紐用糸、ワイヤー、ビーズ、テグスなど、色々な素材を用いた楽しい組紐です。

面白い組み方・いろいろ

2016年12月9日(金) 今井雅子



いろいろな面白い組み方を楽しむワークショップでした。多色使いで糸の動きが楽しい四つ流れ組、2色の組紐が追いかけるようにうねり、隙間もできる交わり組など、特殊な組み方の勉強をしました。写真は交わり組のネックレス。

ループ組紐の人差し指操作

2017年2月17日(金) 角浦節子



世界で行われているもう1つのループ組紐、人差し指操作をトルマッシュ家の家事書からの紹介です。この日は作品作りではなく、組み方のサンプルをたくさん作り、ループ組紐を堪能しました。



東京ワークショップ 日本女子大学

組紐遊び（ディスクとプレート）

2016年5月14日（土） 多田牧子



中に何かを入れてくるみながら組むなど、楽しい組み方を試みました。また Braid-in-Braid の一種のたたみ八つ瀬でもネックレスやブレスレットを作りました。レクチャーは「組紐・組物の材料」「組紐遊び」でした。

豪華なビーズ組紐ネックレス

2016年7月9日（土） 佐久間なほみ



アメリカでとても人気のあるビーズ組紐のワークショップです。八つ金剛が基本で、そこに1粒ずつビーズを落とし込みながら組んでいきます。いろいろな形のビーズを組み込み、美しいネックレスやブレスレットができました。

ポンペイヨさんの平組紐

2016年9月10日（土） 青柳淑枝



アンデスの平組紐のワークショップです。ペルーの組紐研究のため何度もペルーに出かけ、そしてやっと平組をみつけた講師が、その製作者ポンペイヨさんを訪ねた楽しい小旅行のお話もありました。

丸台組紐の無限の可能性

2016年11月12日（土） 吉田夕子



2016年 Tacoma で行われた Braids 2016 での講座の日本版です。新しい組紐の創作の方法を提言し、丸台組紐の可能性を追求するワークショップでした。

おもしろい組紐

2017年1月14日（土） 古澤陽子



組紐ディスクで、ユニークな形の組紐を作るワークショップでした。片方だけのジグザグや、サイズを少しずつ変化させる組み方など、様々なテクニックを学び、その組み合わせで、造形します。面白い形のネックレスがたくさんできました。

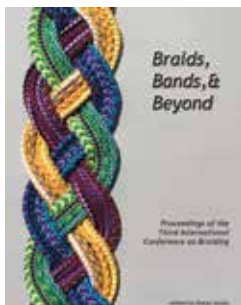
二人で楽しく組みましょう！

2017年3月11日（土） 亀井三枝子



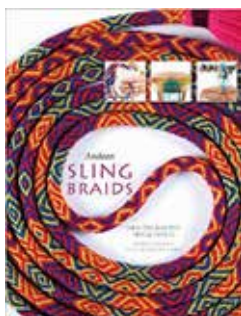
ループ・ブレードイングは器具を使わない組紐技法です。「二人で楽しく組みましょう」というテーマで、平組・角紐・牡鹿の角（角紐の応用）の3種のサンプルを組みました。

新しい組紐の本



第3回組紐国際会議の公式図録。組紐、ブライスブリット、織紐、ポビレースなど多彩な技法をワークショップ講師がそれぞれ3～7ページで解説している。会議で購入したものが若干あるのでお問い合わせ下さい。

- 書名：Braids, Bands & Beyond
- 著者：Robyn Spady（編）寄稿者30名
- 体裁：A4版、ソフトカバー173頁、フルカラー
- 定価：4860円（税込）
- 発行：2016年7月24日
- ISBN：9780957312715



アンデスの組紐の研究者として知られる著者の仕事の集大成とも言える大著。アンデスの投石紐を通常の丸台および各種の木製のフレームを装着した丸台を用いて製作する方法がそれぞれ50種類以上紹介されている。

- 書名：Andean Sling Braids
- 著者：Rodrick Owen, Terry Newhouse Flynn
- 体裁：A4版、ハードカバー216頁、フルカラー
- 定価：4556円（税込）アマゾン調べ
- 発行：2016年8月30日
- ISBN：9780764351037



分かりやすさを最優先し、ディスクとプレートを使った35種類の組紐の作り方を解説している。初心者でもアクセサリーなどの応用作品の制作ができるように工夫され、とくにアンデスの組紐の作り方が7種解説されている。

- 書名：いちばんやさしい！組ひも
- 著者：多田牧子
- 体裁：B5版、ソフトカバー96頁、フルカラー
- 定価：1296円（税込）
- 発行：2017年2月20日
- ISBN：97845280212501

作品・製品展示会 京都5月26～28日

組紐・組物学会では第5回作品・製品展示販売展を開催致します。組紐・組物であれば材料や形態等問いません。丹誠込められた作品、個性あふれる作品、新しい発想の作品や製品を募集します。実物以外にもパネル（作品制作工程、研究発表、製品説明）やカタログ・見本の展示も可能です。皆様、どうぞご参加ください。

- 会期：2017年5月26日（金）～28日（日）
10：00～17：00 最終日は16:00まで
作品講評は27日（土）16:00～16：30
- 会場：〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学 60周年記念館全館
- 申込み締切り：2017年4月30日
- 申込み方法：はがき、FaxまたはEメールで学会事務局にお申込みください。会員は氏名、作品名（帯締め、ショール、立体作品、新しい製品など）、題名および意図とおおよそのサイズをお知らせください。会員以外の方は、住所（郵便番号）氏名、生年月日、電話番号、メールアドレスと作品名および意図とおおよそのサイズをお知らせください。

■出品料：会員は無料、一般2000円

■作品および製品

・作品：50 x 50 cm のテーブル上に展示できるもの、または45 x 100 cm のダンボールパネルにピンなどで張れるもの。その範囲内に飾れる物なら何点でも構いません。オリジナル作品で、応募者本人が制作した組紐・組物作品に限ります。大きい作品の場合は事務局または多田にご相談ください。

出品物に題名・氏名を明記した布または紙を添付してください。

・製品：組紐関係の製品・素材・道具など、組紐複合材料と応用製品、組紐製造機械など

■写真提出締切り：2017年5月5日

必ず作品・製品の写真と、作品の場合は作者本人の顔写真をメールでご送付ください。作品製作が間に合わない場合は製作途中の部分写真でも結構です。

作品・製品の写真、顔写真ともデジタルカメラで高解像度（300万画素以上）で撮影し、メール（s-tada@texte.co.jp）に添付してお送り下さい。添付できない場合はデジカメからSDカードを取り出し、郵送して下さい。携帯電話のカメラで撮影した作品の写真は、通常あまり良い印刷にはなりません。（顔写真は可）作品や顔写真の背景は単色とし、柄のある背景は避けて下さい。（次ページに続く）

■ 搬入・搬出

- 作品の搬入・搬出

搬入日時：5月26日 9:00～10:00 持ち込める方は直接会場にお持ち下さい。持ち込めない方は作品に名前をつけて5月5日までに事務局までご送付下さい。パネル、テーブル、黒布はこちらで用意します。それ以外の展示に必要な材料・道具はご自分でご用意ください。

搬出日時：5月28日 16:00～17:00 (搬出にいらっしゃれない方は事務局にご相談下さい)

- 製品の搬入・搬出 (日時は作品と同じ)

製品：製品見本とカタログの展示の場合は搬入は宅配便でご送付いただき、展示・搬出は学会が行い、宅便で返送いたします。出品料と学会が送付などを行った場合は送料が必要です。

製品販売の場合は搬入と販売を各自でお願い致します。販売、搬出、返送は学会でも行います。そして各社の精算書に基づき販売金額をお振り込み致します。出品料および売上げの10%を経費として頂きます。

■ 表彰と広報

事前にFacebookなどで広く告知をします。また展示された全作品・製品は学会発行のブックレット(図録)に掲載され、作品の一部は学会のニュースレターやホームページにも掲載されます。

出品された作品を対象に、組紐・組物学会学会賞1名、優秀賞2名、学会奨励賞1名を、また製品を対象に学会賞1製品を、理事の中の数名からなる学会賞選考委員会にて決定し、表彰式を懇親会場で行います。

■ 作品・製品の送付・お問合せ先

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 京都工芸繊維大学 伝統みらい教育研究センター 濱田研究室 組紐・組物学会事務局 猪田宮子
Tel/Fax: (075)724-7844 E-mail: inoda@kit.ac.jp または makiko@texte.co.jp

■ 展示即売会

作品展と並行して販売コーナーを設けます。組紐・組物学会会員であることが出展条件です。未入会の方は新年度より入会手続きをお願いいたします。素材は問いませんが、組紐・組物であること、製品毎に名前と価格を明記すること、また経費として売上げの15%をお納め頂きます。

問い合わせ先 (可能な限りメールでお願いします)

メールの件名に「組紐販売」と入れて下さい。

丸山文乃 090 3628 5134 : akubi-ayano@ezweb.ne.jp

西 幾代 090 7022 8395 : suzuran520@docomo.ne.jp

小嶋博子 090 1007 8493 :

hiroko.ojima17@bronze.ocn.ne.jp

第4回シンポジウム 京都

本学会の学術講演会である第4回シンポジウムを開催します。実行委員会では講演発表者と予稿集の原稿を下記要領にて募集しております。

■主催：組紐・組物学会、京都工芸繊維大学 伝統みらい教育センター(共催)

■会場：京都工芸繊維大学 60周年記念館全館(シンポジウムおよび作品展)

■日程：2017年5月27日(土)

10:00～16:00 シンポジウム (13:00～14:00 は総会)

17:00～バンケット (懇親会：60周年記念館2階)

(作品・製品展示会は26日～28日60周年記念館2階)

■参加費：会員3,000円、一般8,000円、学生無料(バンケット代は含みません)

■ 講演募集

組紐・組物に関するあらゆる分野からの講演を募集します。講演内容は、伝統工芸・歴史・文化・芸術としての組紐、工業・産業用途としての組物、複合材料としての組物など。講演形式は、口頭発表です。一件あたり20分(質疑応答を含む)を予定しておりますが、申し込み講演件数により、変更する場合があります。講演を希望される方は、学会事務局宛に必要な事項をご記入の上、お送りください。

■講演申込み締切：4月30日

予稿集の原稿提出要領は以下の通りです。

■内容：表題、氏名、本文、参考文献、図・表・写真

■分量：文章は1200～1400字、図表写真は1～2葉(写真や図の数が多くなれば文字数は少なくなります)

■提出：文章はメールに入れて下さい。表はMS Wordで作成した.doc ファイルをメールに添付して下さい。図と写真はPowerPointに貼り込んで、メールに添付して下さい。

写真の解像度は350dpi以上(印刷されたときの幅が5cm必要なら、原稿の大きさは4倍の幅20cmが必要)ご不明の点はメールでs-tada@texte.co.jpまでお問い合わせ下さい。

■予稿集原稿締切：5月5日



前回の図録

第8回組物検定 京都

第8回の組物検定試験は2017年12月9～10日に京都工芸繊維大学で行われる予定です。本年度は1,2,3,4,5級の検定試験を実施します。

組物検定は、組物を社会に広め、組物技術の向上と発展、技術指導者の育成を目的として、組紐・組物学会が2010年度から実施している検定試験です。性別・年齢・学歴等の制限はありません。

検定基準となる各級の技術到達度および試験範囲は以下のとおりです。

■5級：丸台と角台の8玉、16玉。

組物の基礎的な技能と知識があるか。

■4級：丸台16玉、24玉。

組物について専門的スキルと知識があるか。

■3級：クテ打初級、綾竹台初級、丸台など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、丸台で創作組

■2級：クテ打中級、綾竹台、高台1枚物など。

組物について専門的スキルと知識を持ち、指導者の補佐ができるか。なお2級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

綾竹台作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

高台1枚物作品2本以上（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

■1級：高台2枚物、唐組台など。

組物について高度な専門的スキルと知識を持ち、指導する実力があるか。なお1級を受験する方は以下の作品を実技試験の日にご持参下さい。

高台2枚物作品2本以上

（2年以内に制作したものが望ましい）

提出作品をこれから組まれる方は房を付けない組みっぱなしで提出して下さい。

1級合格者は、組紐指導者として活躍できるよう、個別の作品展の開催、「組紐・組物学会認定講師」の名刺（学会ロゴ入り）の制作などを学会が支援します。

■合格判定

筆記試験は獲得点数により判定します。合格ラインは年度により変化しますが、5級が75点、4～2級が80点、1級は85点前後です。

実技試験は試験会場で組まれた作品をもとに審査員が判定します。間違いの有無、時間内に所定の長さで組まれているか、動作と出来映えの3つの観点からA, B, Cの3段階評価とし、A, Bが合格となります。

なお、今年不合格になった科目は、翌年にその不合格科目のみを受験して合格すれば、その級に合格することが出来ます。

■受験申込要領

受験を希望する方は、住所、氏名、電話番号、メールアドレスをFax、電子メールまたは葉書で11月20日までに学会事務局までお送り下さい。受験料は7560円（絹糸の材料費を含む）です。銀行振込または当日の現金払いも受け付けます。

組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院伝統みらい教育研究センター内
〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎御所海道町

Tel/Fax: (075)724-7844、E-mail: inoda@kit.ac.jp

■匠検定

一昨年度から「匠検定」が設けられました。筆記試験のない実技のみの試験です。実技試験としては、1級より難しく、高台2枚物の技能を検定します。匠検定から受験する方は丸台の試験もあります。また2年以内に製作した作品2点以上を提出して頂きます。



2016年12月 筆記試験

ワークショップ 京都 2017-2018

- 第1回ワークショップ (60周年記念館 2F)
5月26日(金) 10:00～16:00 多田牧子
5月28日(日) 10:00～16:00 土居みどり
- 第2回ワークショップ&レクチャー
(60周年記念館 2F)
8月25日(金) 10:00～16:00 吉田夕子
8月26日(土) 9:30～12:00 レクチャー 多田牧子
- 第3回ワークショップ (総合研究棟 4F 多目的室)
9月26～29日(金) 10:00～16:00
Adrienne Gaskell、多田牧子
- 第4回ワークショップ&レクチャー
(会場:未定)
12月8日(金) 検定直前ワークショップ
10:00～16:00 小嶋博子
12月10日(日) 検定直前レクチャー
9:30～12:00 多田牧子
- 第5回ワークショップ&レクチャー (2018年)
(会場未定)
2月16日(金) 10:00～16:00 春日弘子
2月17日(土) ワークショップ&レクチャー
9:30～12:00 多田牧子

ワークショップ 東京 2017-2018

- 第1回ワークショップ (会場は日本女子大学)
5月13日(土) 10:30～16:00 多田牧子
- 第2回ワークショップ
7月8日(土) 10:30～16:00 小嶋博子
- 第3回ワークショップ
9月16日(土) 10:30～16:00 Adrienne Gaskell
- 第4回ワークショップ
11月25日(土) 10:30～16:00 西幾代
- 第5回ワークショップ (2018年)
1月20日(土) 10:30～16:00 丸山文乃
- 第6回ワークショップ (2018年)
3月10日(土) 10:30～16:00 亀井三枝子
ワークショップの日時・会場・講師には変更がありますので、学会ホームページで最新情報をご確認下さい。



2016年9月 日本女子大

役員

- 会長
小嶋博子 : 組紐研究者
- 副会長
仲井朝美 : 岐阜大学工学部
- 理事
荒川光久 : 全国くみひも教材センター
上田隆久 : 日本ピラー(株)
魚住忠司 : 村田機械(株)
大谷章夫 : 京都工芸繊維大学
北村雅之 : 北陸ファイバークラス(株)
倉谷泰成 : (株)カドコーポレーション
多田牧子 : 組紐研究者
寺本 靖 : (有)寺本文化財工芸社
西本博之 : 武田薬品工業(株)
濱田泰以 : 京都工芸繊維大学
濱中知子 : ハマナカ(株)
廣澤浩一 : 三重県組紐協同組合顧問
圓井 良 : 圓井繊維機械(株)
松梨久仁子 : 日本女子大学
渡辺一生 : 渡敬(株)

事務局

- 猪田宮子 : 京都工芸繊維大学



組紐・組物学会事務局

京都工芸繊維大学大学院
伝統みらい教育研究センター内
〒606-8585
京都市左京区松ヶ崎御所海道町
Tel/Fax: (075)724-7844
E-mail: inoda@kit.ac.jp
www.kumihimo-society.org
ご入会、ワークショップ、組紐
検定、シンポジウム講演、作品・
製品展参加のお申し込みはこち
らにお願いします。